

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（概要抜粋）

社会保障審議会児童部会
児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会
第3次報告（平成19年6月22日）

検証方法

- 平成17年中に子ども虐待による死亡事例として把握された70例（86人）について、心中以外の事例51例（56人）、心中事例19例（30人）それぞれについて分析

結 果

1 年齢 — 0歳児の死亡割合は約4割の水準 —

- 心中以外の事例では、0歳が最も多く、約4割となっている。
（0歳児の死亡数に占める割合：H16年46.0%（23人）、H17年38.5%（20人））

2 動機 — 望まない妊娠は低年齢児の死亡リスクの大きな要因 —

- 心中以外の事例の3歳未満では、望まない妊娠が25.0%、子どもがなつかないなどや保護を怠ったことがともに20.0%。

3 妊娠期の問題 — 母親自身が何らかの葛藤を有している可能性があるケースが約2割 —

- 心中以外の事例の妊娠期の問題について、母子健康手帳未発行、望まない妊娠/計画していない妊娠、妊婦健診未受診の3つのいずれかがあった子どもは17.9%（10人）。